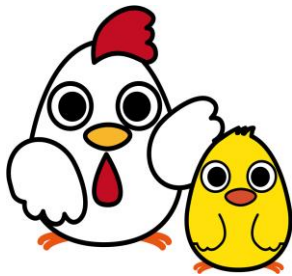


第142号 ボランティア情報 ふじいでら プラム

社会福祉法人 藤井寺市社会福祉協議会
藤井寺市ボランティアセンター
藤井寺市ボランティア連絡会
〒583-0035 藤井寺市北岡 1-2-8
TEL 072-938-8220
FAX 072-938-8221
E-mail fureai@silver.ocn.ne.jp
URL <http://www.fujiidera-shakyo.net>



2017☆酉年



「Yes, We can!」

【第44代アメリカ合衆国大統領バラク・オバマ】

阪神大震災が発生して、1月17日で22年目を迎えます。その間ボランティアを取り巻く環境は、少子高齢化、核家族化、地域のつながりの希薄化等の社会背景の変化に合わせて、より多角化・細分化されてきました。

変化の中で、困難な事に直面されることも多々あると思いますが、ボランティアセンターとしてもこれまで以上に、相談・連携しながら、解決に向け一緒に頑張りたいと思います。今年もよろしくお祈りいたします！！

第4弾 REMEMBER 東北

全社協 被災地支援・災害ボランティア情報によると、平成23年3月11日に東北を震源とする東日本大震災が発生してから被災地（岩手県・宮城県・福島県3県合計）入りするボランティアの数は、平成23年5月の171,900人をピークに、平成28年7月現在では3,800人まで減少しています。

被災地の1つ南三陸町は、平成23年3月11日の大津波の被害が甚大で町の62%（市街地で75%）もの家屋が損壊しました。

6年を迎えた現在、志津川市街地低地部では嵩上げ工事と高台の造成は進み、悲願の公立志津川病院と南三陸町社協本部を含むケアセンターも新設されました。復興は目に見える姿で着実に進んでいます。それに伴って災害公営住宅への転居・防災集団移転も本格的に始まり、新しいコミュニティの形成が求められています。

それらのニーズに応えるためには、まだまだ多くのボランティアの支援が不可欠です。

みなさまの温かいご支援、ボランティアへのご参加をよろしくお願いいたします。

*被災地でのボランティア活動をお考えの方は必ずボランティア保険に加入してください。通常のものではなく、天災タイプ（年間600円）に入ることをおすすめします。在住地等（又は出発地）の社会福祉協議会で加入してください。被災地の復興がスムーズに行われるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



思い出写真館の様子

特集 「こども食堂～前編～」

近年、全国の市町村で広がるこども食堂の活動。核家族化・少子化・地域のつながりの希薄化が進む中で、子どもの貧困がクローズアップされています。子どもたちの居場所や人間関係づくり、学力保障の機会の確保になると注目されています。

今回から、2回にわたり子ども食堂について特集します。



●子どもの貧困

2013年5月、大阪府北区天満のマンションの一室から成人女性と幼子の遺体が発見された。2人は、夫によるDV（配偶者間暴力：Domestic Violence）被害から逃れてきた女性とその子どもだった。女性は、夫から逃れたい一心で親族にも居場所を伝えていなかったようで、頼れる相手は誰もおらず、遺体発見時、部屋のガスや電気は止められていて冷蔵庫には何も入っていなかった。孤立した親子の生活は深刻な困窮状態にあったと見られている。幼児の死因は”餓死”との見方が強く、室内には「最後にもっとたくさん食べさせてあげられなくてごめんね」と書かれたメモが残されていたのだという。残念ながら、こういった貧困が原因の痛ましい事件は度々起きている。

親の貧困や育児放棄により、学校の給食でしか満足に栄養のある食事をとれない子どもたちがいる。共働きや一人親など、家庭の事情により夕食に一人でコンビニ弁当や菓子パンを食べ過ぎて過ごす”孤食”の子どもたちも増えている。

親世代の雇用の不安定、格差の広がりが顕著になった90年代から子どもの貧困問題は取り上げられてきた。厚生労働省によると、平均所得の半額を下回る世帯で暮らす17歳以下の割合を示す「子どもの貧困率」は、2012年に16.3%と過去最悪を更新した。約6人に1人の子どもが貧困下で暮らしていることになる。人口問題研究所の調査では、一人親世帯に限った場合の子どもの貧困率は54.6%で、過去1年間に経済的理由で食費が不足した経験のある割合は約3割に上った。

平成25年 国民生活基礎調査の概況 厚生労働省

	昭和 60年	63	平成 3年	6	9	12	15	18	21	24
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
相対的貧困率	12.0	13.2	13.5	13.7	14.6	15.3	14.9	15.7	16.0	16.1
子どもの貧困率	10.9	12.9	12.8	12.1	13.4	14.5	13.7	14.2	15.7	16.3
子どもがいる現役世帯	10.3	11.9	11.7	11.2	12.2	13.1	12.5	12.2	14.6	15.1
大人が一人	54.5	51.4	50.1	53.2	63.1	58.2	58.7	54.3	50.8	54.6
大人が二人以上	9.6	11.1	10.8	10.2	10.8	11.5	10.5	10.2	12.7	12.4
名目値	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円
中央値 (a)	216	227	270	289	297	274	260	254	250	244
貧困線 (a/2)	108	114	135	144	149	137	130	127	125	122
実質値 (昭和60年基準)										
中央値 (b)	216	226	246	255	259	240	233	228	224	221
貧困線 (b/2)	108	113	123	127	130	120	116	114	112	111

- 注：1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2) 貧困率は、OECDの作成基準に基づいて算出している。
 3) 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
 4) 等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。
 5) 名目値とはその年の等価可処分所得をいい、実質値とはそれを昭和60年（1985年）を基準とした消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合指数（平成22年基準））で調整したものである。

●子ども食堂とは

子ども達に、無料または格安で食事を提供する『子ども食堂』という活動が、地域コミュニティとの繋がりが希薄になりがちな都心を中心に、全国に広がりつつある。「食」に貧しい子どもたちを支援しようと、ボランティアの取り組みで始まった。食材や食事を作るスタッフは善意のボランティアや、運営者の寄付・持ち出しにより賄われているのが現状である。子ども食堂は、子どもが一人でも入れる食堂である。開催は毎日ではなく月に1~2回程度のところが多く、子どもに人気で比較的簡単に作れるカレーライスメニューにするところが多い。WEBで取り組みを発信して実施日やメニューなどを積極的に公開する食堂もあるが、地域で知る人ぞ知る取り組みとして実施しているところが多いのが現状である。子ども食堂にやってくるのは、生活保護で暮らす母子家庭の親子や、孤食が日常化した子ども、日本語があまりできずに孤立している外国籍の子ども達などである。子ども食堂では、学習が遅れている子どもがいれば、学習支援教室を開催して支援することもある。中には、子ども食堂に来店した中学生が金銭的な事情で高校進学を諦めたこと知り、その子の高校進学のために地域ボランティアが支援を募り、無事に高校に進学できたケースもある。

●子ども食堂の始まり

子ども食堂の生みの親は、東京都大田区で八百屋だんだん（出雲の方言で”ありがとう”を意味する）を営む近藤博子さんである。家庭の事情で給食以外はバナナしか食べていない子どもが近所にいるという話を耳にしたことがきっかけとなり、八百屋の店舗を利用して、子ども一人でも入れる食堂を開いたそうだ。毎月第2・第4木曜日に営業。子どもは300円、大人は500円という安価で”近所のおばちゃんたち”が作る、暖かくて美味しい手作り料理を食べることができる。他の子と楽しくおしゃべりしながら食事をする子どもがいたり、母子家庭の親子で来店し、食事が終わった後もしばらく店に居残って、子ども同士が遊んでいる向こうで、親同士が悩みを相談しあったりと地域の交流の場となっている。また、部活の為に勉強をする時間を確保できない子どもの為にイベントスペースを寺子屋として活用する事もされている。

【出典 HP】

- ① 貧困や孤食から子供を救う、“こども食堂” | kasiko[カシコ]
- ② 厚生労働省 平成25年 国民生活基礎調査の概況（貧困率の年間推移）

「子ども食堂～後編～」は、次号掲載予定です。お楽しみに！！



©fumira

求む！ボランティア

(連絡先)

TEL : 072-938-8220

MAIL : fureai@silver.ocn.ne.jp

募集

「つどいの広場 ふじいでら」からのお知らせです。

つどいの広場ふじいでらでボランティアをしませんか？

楽しみながら気軽にできる、ふれあいのお手伝いです。

活動内容：①イベントボランティア…趣味や特技をお持ちで、指導頂ける方。

(手芸、英会話、写真等)

②託児ボランティア…イベント中、0歳～就園前のお子さんの見守りをスタッフと一緒に手伝い頂ける方。

日時：①イベントボランティア…平日 10:30～12:00 (曜日は応相談)

②託児ボランティア…平日 10:30～12:00 (イベントによって異なる)

実施場所：つどいの広場 ふじいでら (住所：藤井寺市小山9-1-16)

問・申込みは直接発信者へ：TEL 072(936)0011【スタッフ】



災害ボランティア養成研修 2016 その2 報告

11月29日(火)福祉会館にて、日本赤十字社大阪府支部の方を講師にお招きし、第二回の研修会を行いました。(参加者33名)

研修の前半は、大阪を取り巻く災害関連の話を講義形式で。後半は、AEDの講習や身近なものを使った応急技術について学びを深めました。



【研修会の様子】



*第3回は、1月24日(火)に実施予定です。

【開所時間】 月～金曜日(土・日・祝除く) 午前9時～午後5時30分